

2012年7月17日

内閣府食品安全委員会事務局評価課内

「ツラスロマイシンを有効成分とする豚の注射剤（ドラクシン）の承認に係る  
薬剤耐性菌に係る食品健康影響評価に関する審議結果」意見募集担当様

ツラスロマイシンを有効成分とする豚の注射剤（ドラクシン）の承認に係る  
薬剤耐性菌についての御意見・情報の募集

日本生活協同組合連合会 品質保証本部 安全政策推進室  
室長 鬼武 一夫  
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3丁目29番8号  
電話:03-5778-8109

標記の件について、下記の意見を提出いたします。

記

意見：抗生物質の使用量は、最新のものを活性成分の重量で示すべきと考えます。

評価対象動物用医薬品の概要として、動物用マクロライド系抗生物質及びリンコマイシン系抗生物質の販売高が示されています。しかし OIE Terrestrial Animal Health Code (Monitoring of the quantities of antimicrobial agents used in animal husbandry) には、使用した抗菌薬の活性成分の重量がリスクアナリシスにとって重要であるとされています。さらに、審議結果（案）で示された販売高は2005年までと情報が古いことから、日本動物用医薬品協会の統計等から、より有益で新しい情報を引用すべきと考えます。

またこれに関連して、マクロライド系抗生物質の使用量については、飼料添加物としてほ乳期豚に使用されるリン酸タイロシンを含むものかを明らかにし、含まない場合は飼料添加物としての使用量も追記すべきと考えます。

(参考)

・社団法人 日本動物用医薬品協会 「各種抗生物質・合成抗菌剤・駆虫剤・抗原虫剤の販売高と販売量（平成17～22年）」2012

以上